

CASBEE京都-新築(2011年版)
五健堂第4倉庫

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		評価点	重み係数				評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質											2.3	
Q1 室内環境								0.30				3.0
1 音環境							3.0	0.20				3.0
1.1 騒音							3.0	0.50				
1 室内騒音レベル							3.0	1.00				
1.2 遮音							3.0	0.50				
1 開口部遮音性能							3.0	0.60				
2 界壁遮音性能							3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												
1.3 吸音												
2 温熱環境							3.0	0.47				3.0
2.1 室温制御							3.0	1.00				
1 室温												
3 外皮性能							3.0	1.00				
4 ゾーン別制御性												
2.2 湿度制御												
2.3 空調方式												
3 光・視環境												
3.1 昼光利用												
1 昼光率												
2 方位別開口												
3 昼光利用設備												
3.2 グレア対策												
2 昼光制御												
3.3 照度												
3.4 照明制御												
4 空気質環境							3.0	0.33				3.0
4.1 発生源対策												
1 化学汚染物質												
4.2 換気												
1 換気量												
2 自然換気性能												
3 取り入れ外気への配慮												
4.3 運用管理							3.0	1.00				
1 CO ₂ の監視												
2 喫煙の制御							3.0	1.00				
Q2 サービス性能								0.30				2.2
1 機能性							1.2	0.40				1.2
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40				
1 広さ・収納性												
2 高度情報通信設備対応												
3 バリアフリー計画												
1.2 心理性・快適性							2.0	0.30				
1 広さ感・景観												
2 リフレッシュスペース							3.0	0.50				
3 内装計画							1.0	0.50				
1.3 維持管理							2.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計							2.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保							2.0	0.50				
2 耐用性・信頼性							2.6	0.31				2.6
2.1 耐震・免震							3.0	0.48				
1 耐震性							3.0	0.80				
2 免震・制振性能							3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数							3.0	0.33				
1 躯体材料の耐用年数							3.0	0.42				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							3.0	0.42				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							3.0	0.17				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												
6 主要設備機器の更新必要間隔												

2.4 信頼性				1.0	0.19		-	
1	空調・換気設備			1.0	0.25		-	
2	給排水・衛生設備			1.0	0.25		-	
3	電気設備			1.0	0.25		-	
4	機械・配管支持方法			-	-		-	
5	通信・情報設備			1.0	0.25		-	
3 対応性・更新性				3.3	0.29		-	3.3
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31		-	
1	階高のゆとり			5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38		-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.60		-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	-	-		-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.40		-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	-	-		-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	-	-		-	
6	バックアップスペース			-	-		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.40		-	1.8
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				1.0	0.30		-	1.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)	1.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)	1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	2.8
LR1 エネルギー				-	0.40		-	2.8
1 建物の熱負荷抑制					-		-	-
2 自然エネルギー利用				4.0	0.29		-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)	3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	5.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化				2.0	0.43		-	2.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				2.0		ERR=0%	-	
集合住宅の評価							-	
4 効率的運用				3.0	0.29		-	3.0
4.1	モニタリング			-	-		-	
4.2	運用管理体制			3.0	1.00		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	3.0
1 水資源保護				3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水				-	-		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00		-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	3.0	1.00		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			-	-		-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.4	0.63		-	2.4
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	1.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				5.0	0.22		-	5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				5.0	1.00		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-		-	
1	消火剤			-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	-		-	
3	冷媒			-	-		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	2.7
1 地球温暖化への配慮				3.4	0.33		-	3.4
2 地域環境への配慮				2.1	0.33		-	2.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	1.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減			-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制			-	-		-	
3	交通負荷抑制			4.0	0.50		-	
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.50		-	
3 周辺環境への配慮				2.6	0.33		-	2.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音			3.0	1.00		-	
2	振動			-	-		-	
3	悪臭			-	-		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制			3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制				-		-	
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				1.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	1.00		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)	-	-		-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる